

福岡市環境教育・学習計画推進協議会 議事録【要旨】

- 日 時：令和元年9月5日（木）13：30～15：00
- 場 所：アクロス福岡6階 会議室606
- 出席委員：浅野委員，荒瀬委員，菊水委員，西村委員，田島委員，井手委員，振原委員，
田川委員，平山委員，斎藤委員（溜主事代理），牟田委員（篠崎係長代理） 計 11名
※欠席者（2名） 國上委員，平委員
- 議事 1：福岡市の環境教育・学習関連施策について（平成30年度）
議事 2：成果指標の達成状況について

「福岡市環境教育・学習計画（第三次）」で定めている9つの基本的方向に基づいて、平成30年度の福岡市の施策の取組状況及び「福岡市環境教育・学習計画（第三次）」の成果指標について報告を行い、当該協議会委員からの意見を聴取。

<委員からの主な意見>

- まんべんなく、いろんな取り組みがなされているように感じた。参加者の減少など課題があるものについては、事業の見直しを行い、シンボリック的な取り組みを活用し実施するなど工夫してはどうか。
- 回答者が毎年変わる市民アンケートの調査結果をもって、事業成果を判断するのは難しい面もあるのではないかと。市として地域の活動、取り組みをしっかりと把握し、数値化するとともに、発信していくことが大事なのではないかと。
- 地域では地道に環境活動を継続している方々もいるが、その活動が他の地域に広がっていない。いい取り組みを行っている団体等を公民館の会議等で紹介するなど、他の地域へ活動が広がる仕組みを作ってほしい。
- 事業者による環境活動が活発化している。地域に根差した取り組みを行っている事業者もあるため、学校、PTA、地域団体などとタイアップする取り組みがあってもいい。
- 小学校では、社会科や総合学習の時間を使い環境について学んでいる。学校で学んだことを生活につなげることが課題だと感じている。身近な大人がどのように学び、行動できているのか地域における環境活動が課題解決の糸口になるのではないかと。
- 学校での取り組みと市の施策をつなぎあわせ、保護者に発信していくことが必要だと感じた。
- 小学生に対する環境学習の機会が多いように感じるが、中学生に対しての取り組みは少ないのではないかと。職場体験の機会などを通して、しっかりと取り組んでほしい。
- ごみやリサイクル、マイクロプラスチック問題など学習する機会はあるが、そもそも「何のために」環境活動に取り組むのか、自分の生活が「どのように」環境問題につながっているのかを理解しないと環境学習は継続しない。幼いころからの自然体験活動の提供をしっかりと取り組んでほしい。
- 環境学習と言えば、ごみ問題がクローズアップされるが、まずは、自然の豊かさを知り、自分もその自然と一緒に生きている一員であることを知ってほしい。そうすることによって、将来、環境について考えるエネルギーになるのではないかと。
- 環境活動に取り組んでいる人材の発掘が必要不可欠である。リストアップなどを行い、地域の環境活動の活性化に取り組んでいくべきだ。
- 情報発信のためのツールや手法を工夫し、あらゆる機会をとらえ、地域における環境活動や人材の情報を効果的に発信してほしい。